

旧西川利右衛門家住宅

旧西川利右衛門家住宅は、17 世紀に蚊帳や畳表を中心に販売し、財を成した商家の邸宅である。初代西川利右衛門（1590-1646）は、江戸に大文字屋、大阪に近江屋という屋号で店を構え、家業を興した。以後、歴代の当主は西川利右衛門を名乗った。

新町通の西側に 1706 年に家を建てたのは三代目の西川利右衛門である。三代目利右衛門の弟・庄六が分家し、利右衛門邸の向かいに住むようになり、1785 年に邸宅を建てた。1930 年、11 代目西川利右衛門が後継者なく死去し、本家は終焉を迎えた。しかし、西川庄六家は存続し、西川利右衛門邸を近江八幡市に寄贈した。1983 年に重要文化財に指定され、1985 年から 1988 年にかけて大改修が行われ、江戸時代の典型的な近江商人の家として、当時の姿がよみがえった。

現在博物館として公開されている 2 階建ての住宅は柵の木材で作られ、黒塗り壁、切妻瓦葺きである。1 階に玄関、店舗、台所は土間、居住スペースは木のフローリング。応接室の床は畳敷きだ。通りに面した側には雨戸があり、スライドさせて正面を店舗として利用できるようになっている。建物の中にはさまざまな歴史的遺物や美術品が展示されている。中庭には、1681 年と 1683 年の間に建てられた白壁の 3 階建て耐火建築の土蔵がある。西川利右衛門家住宅の向かいにある西川庄六家住宅は滋賀県指定文化財になっている。